

○「生産物で分かれて意見交換へ」

(京都府宮津市 由良地区連絡会議)(平成30年度第2回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化遊休農地の
発生防止・
解消新規参入の
促進その他
(農業委員会の
体制強化等)

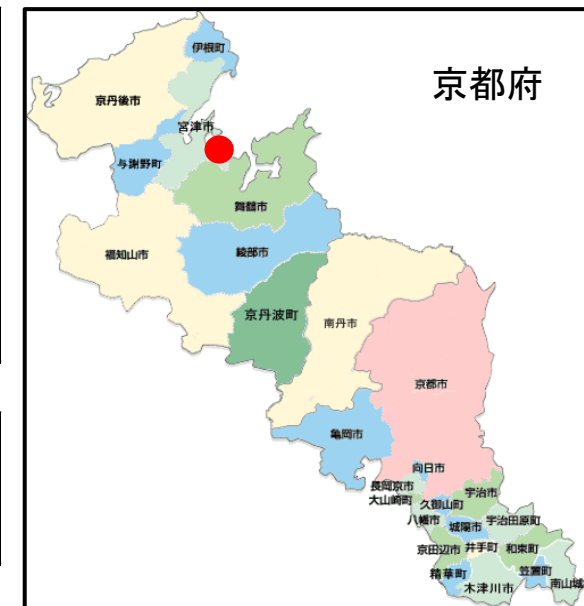
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年7月27日(金) 19:00～21:30
- 場 所: 宮津市由良集会所
- 出席者: 藤井会長、榊田推進委員
協力員6人、事務局2人、市課長
※委員2人、委員以外9人
- 報告者: 増田 英雄 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

- 東部生産組合(浜野路・港・石浦)によるほ場整備地区(95人)。トラクターを所有し貸出
- 由良東部農地管理協議会(30人)で中山間・多面的事業を実施／由良地区営農組合が乾燥機を所有し、受託組織となっている
- 上石浦では個人がオリーブを直売／下石浦では、みかん組(代表・藤本とくお氏)合があるが組織活動はなし



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 水稻、オリーブ、みかん に分かれて、地域農業と農地について話し合い活動か
- オリーブ栽培;「オリーブを育てる会」(設立5年目)が、これまで1,000本植栽。成木には10年。遊休農地活用も
会と個人の栽培管理がある。販売は、地元スーパーや直売所。今後も拡大見込み
課題は、地主が永年の貸付を望まないこと
- みかん栽培;新規みかん園を造成(浜ノ路地区。メッシュ防護柵設置)。獣害は、冬場の葉の食いや熊
みかん農家は、下石浦3戸、上石浦6戸、組合7戸。高齢化により減少傾向(90歳代農家2戸)
栽培管理の苦勞(消毒・肥料散布は年4～5回 ※和歌山は7～8回、下草刈り、夏場の摘果)

4 活動結果

- 情報・意見交換 2.5 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援